

2019年2月16日（土曜日）

支え合い文化定着を

市民ら活発に意見交換

本年度最後の未来図会議で

陸前高田

本年度最後の陸前高田市未来図会議は15日、高田町の市コミュニティホールで開かれた。住民主体の支え合い文化を地域に根付かせようと、本年度は市民にも参加を呼びかけてきた同会議。支え合いに不可欠な「人と人とのつながり」を育む意識をさらに広げていくため、運営側は「来年度も多くの人が参加してもらえようと呼びかけていく」としている。



同会議は、「はまっぺてけら（仲間に入っぺ）、かだっぺてけら（話しましょ）運動（略称：はまかだ）を普及し、同市が推進する「フォーマイゼーション」という言葉の知らないまちづくり」に寄与しようと立ち上げられた。

昨年度まで保健・医療・福祉分野の関係者が定期的に集い、「はまかだ」に関するさまざまなテーマのアイデアを出し合ってきたが、本年度はこれまで

活発に意見を交わす参加者ら

の活動成果を踏まえて活動を発展させた。市民や他分野の職種の人も巻き込み、「オールたかた」で情報やヒントを共有する場と位置づけ、地域づくりを手がけるNPO法人など、幅広い業種の間接者が企画・運営段階から携わるようになった。

15日は市民ら約60人が参加。「はまかだ」を生かした、おらほの地域づくりをテーマに、下矢作地区と広田地区の地域支え合い推進員が、それぞれの地域での取り組みについて紹介した。

このあと、8グループに分かれて「地域で支え合うために〜いま、何が必要か?〜」をテーマに意見交換。各グループで話し合った内容を発表し合い、支え合いに必要な心がけとして「何気ない声かけ」などの重要性に理解を深めた。

同市はまた運動推進アドバイザーで、岩手医科大学の佐々木亮平さん（43）は「今回は特に初めて参加する市民が多かったように感じられた」と喜び、「市民の健康や生活を、行政や専門家のみで支えるのではなく、自分たちで支えようという意識を芽生えさせるため、もっとたくさんの人を巻き込んでいきたい」と思いを新たにす